

武蔵工業大学後援会誌

Mi-com

No.

14

1996-7



夏、今日はごきげん。
待ちに待った水泳大会
天気バッチリ、水温OK!
賞品はビールだ!
勉強ばかりじゃつまらない

ごあいさつ



武蔵工業大学後援会 会長

黒崎 浩

この6月より飯田前会長の後をうけ、会長に就任いたしました。

武蔵工業大学後援会は、昭和63年12月に発足し8年目を迎えております。8年に亘る期間中、初代金原会長、二代飯田会長をはじめ、役員、ご父母の皆様方のご協力、また、大学側の学長および教職員の方々のご支援により、今日あるような立派な後援会に発展して参りました。

後援会の目的は大学の教育方針に従って、父母と大学の教職員との連携を密にして、学生の修学、学生生活の向上を助け、その他大学を後援して、その発展に寄与するとともに、会員相互の親睦を計ることにあります。現在の会員数は4,231名で在学生の約81%の方々の加入を頂いております。本会の活動内容の主なものを挙げますと

1. 正課外教育活動に対する援助
 2. 学生生活に対する援助
 3. 緊急奨学金制度
 4. 大学と父母との連絡会の開催
 5. 会誌の発行
- 等々があります。

特に緊急奨学金制度は、入学後家計事情が急変した学生の向学心に応えるものとして創設され、有効に運用されております。

一般に理工系学生は、真面目でよく勉強すると評価されておりますが、21世紀を舞台に活躍する若き技術者として、まず立派な社会人・国際人としての常識と、調和のとれた人格形成が求められております。そのためには、基礎的な専門知識の修得のみならず、広く課外活動を通じて、多くを学ぶことが必要と思います。後援会としては、このような観点から、学生が有意義な学生生活が送れるよう、大学とともに側面から支援して参ります。そのためにも後援会を更に充実、発展させていくことが重要です。今後ともご父母の皆様方のご協力、ご援助を賜りますようお願い申し上げます。



平成8年度 評議員会が開催される

武蔵工業大学後援会の平成8年度評議員会が平成8年5月25日(土)午後2時45分から大学の3号館311教室において役員、評議員59名(委任出席16名)の出席のもとに開催されました。

評議員会は飯田進也会長の開会の挨拶で始まり、役員および今年度新しく評議員に就任された22名の方々が紹介された後、議事に入りました。議事は事務局から第1号議案から各議案ごとに提案説明され、その後、この説明にもとづいて審議され採決の結果、次の議案が原案の通り可決、承認されました。



▲挨拶をされる古浜学長(中央)と飯田会長(左)、中添学生部長(右)



▲審議風景

武蔵工業大学後援会 平成8年度 評議員会

平成8年5月25日(土)

武蔵工業大学 311教室

1. 開 会 の 辞 ——飯田会長——
2. 報 告 事 項
平成7年度後援会入会者数及び会員数について
3. 議 事
第1号議案 平成7年度 事業報告について
第2号議案 平成7年度 決算報告について
第3号議案 平成8年度 事業計画案について
第4号議案 平成8年度 予算案について
第5号議案 平成8年度 役員候補者について
4. そ の 他
会務の処理に関する事項
5. 閉 会 の 辞 ——黒崎副会長——



大学との懇談会

(1) 事業

1. 正課外教育援助

■主な課外活動への援助

- 学生団体連合会への援助
平成7年度、学生団体連合会へ活動援助金として1,200万円を援助した。
- 「課外活動に対する補助制度」による一般援助は、94団体となった。
 - (1)新聞会の発行紙「Mit work」紙面拡大・増刷に伴い、パソコン及び周辺機器の増強のために援助。
 - (2)吹奏楽団の学内コンサート「M.I.T. JAZZ FESTIVAL'95」の企画・運営・実施に対して援助。
 - (3)鉄道研究部の学会誌への研究発表、「電車とバスの博物館」における「Nゲージ大運転会」の共催などの活動に対して援助。
 - (4)アイスホッケー部の第68回日本学生氷上選手権大会の出場に対する援助。
 - (5)ラグビー部の第46回全国地区対抗ラグビーフットボール大会出場に対する援助。
 - (6)ハンドボール部・村上拓真君（経営3年）が東日本学生選抜チームに選拔され、ドイツ遠征に際し、援助。
 - (7)カヌー競技のオリンピック強化指定選手・星栄介君（経営2年）及びスピードスケート・ショートトラック競技の高橋優君（通信1年）の顕著な活躍に対する援助。
- 他。
- 学生行事に対する援助
 - (1)学生団体連合会主催の新入生歓迎行事（スプリングフェスティバル'95）へ援助。
 - (2)体育会主催の体育祭へ援助。
 - (3)文化団体連合会主催のミュージックフェスティバルの運営費を援助。
 - (4)テニス系3団体主催の学長杯MI-Techテニストーナメント大会に対して援助。
 - (5)学生団体連合会・MIT祭実行委員会主催によるMIT祭の運営資金を援助。
- 他。

■学生顕彰

- (1)大学の課外活動賞（学長賞、学生部長賞、課外活動奨励賞）のうち、課外活動奨励賞を授与し、副賞を贈呈。

- (2)在学中、課外活動に貢献した学生を選考し、21名に「後援会長賞」を授与し、表彰する。

■学生の生活指導に対する援助

- (1)学生部委員による学生団体の夏期合宿の激励と各団体に対する合宿援助金を支給。（22団体）
- (2)学生団体の責任者を対象とした「リーダース研修会」費用の一部援助。（平成7年12月）
- (3)MIT祭の実施担当者・協力者と学生部の反省会・慰労会に対し援助。
- (4)留学生の研修及び国際交流活動に対し援助。

2. 「大学と父母との連絡会」への援助と協力

- 全国26会場で開催された「大学と父母との連絡会」の費用の一部（336万円）を負担。
- 東京会場においては飯田会長が後援会を代表して挨拶。地方会場においては評議員の方々に会の運営等にご協力をいただいた。

3. 大学行事への協力

- 平成7年度入学式に飯田会長が来賓として出席し祝辞。（平成7年4月）
- 学校法人五島育英会傘下の後援会合同懇親会に飯田会長が出席。（平成7年6月）
- ラグビー部の全国大会優勝による学長主催の優勝祝賀会に際し、尾山台商店街掲揚用の祝賀横断幕を作成し、寄贈。（平成8年1月）
- 平成7年度課外活動賞授賞式に飯田会長が出席し、課外活動奨励賞を授与。（平成8年2月）
- 平成7年度学位授与式に飯田会長が来賓として出席し、「後援会長賞」の授与及び祝辞。（平成8年3月）

4. 学生厚生援助

- 学生の情操教育の一助として、9号館2階の学生談話室に自動演奏付ピアノを購入し寄贈。

5. 後援会緊急奨学金

- 会員の家計の急変により学業の継続が困難な子弟に対して授業料相当額（全額または半額）を貸与する緊急奨学金は、今年度7名に対し総額374万5千円を貸与。（平成7年7月、12月）

6. 会誌の発行

- 後援会の会誌「Mi-Com」12号（平成7年7月）、13号（平成7年12月）を刊行し、会員へ送付。

7. マイテック・フレッシュマン・キャンプに対する援助

- 平成7年4月19日・20日の2日間、新入生を対象

とした研修行事に対して援助。

8. 入会案内等の発送

- 平成7年度入学者のうち未入会の父母宛に再度入会案内を送付。(平成7年7月)
- 平成8年度入学予定者(推薦及び自己推薦)の父母宛に入会案内を送付。(平成8年1月)
- 平成8年度入学予定者(A方式・B方式及び付属)の父母宛に入会案内を送付(平成8年3月)

9. その他

- 入会案内用パンフレット「後援会のご案内」のデザインを一新して作成。
- 会員の子弟の死去に際し、香典・花環等を供えた。
- 後援会の事務担当者(アルバイト)の採用。(平成7年4月～平成8年3月)
- 大学へ「後援会長賞」の候補者の推薦依頼。

(2) 運 営

1. 理事会

平成7年5月13日(土)

- 平成7年度評議員会提出案件の審議。

平成7年11月25日(土)

- 平成7年度の(1)事業経過、(2)入会者数について、(3)「大学と父母との連絡会」の結果に関する審議。
- 平成8年度の主要会議日程、役員候補者選考、入会案内書送付等に関する審議。なお当日は理事会終了後、顧問の古浜庄一学長ほか大学関係者との懇談会が行われた。

2. 評議員会

平成7年5月27日(土)

- 平成6年度の事業報告、決算報告および平成7年度の事業計画案、予算案、役員候補者についての審議。なお、当日は評議員会に先立って学内の見学会を行い、評議員会終了後は、大学の教職員との懇談会が行われた。

3. 後援会の事務担当者(アルバイト)の採用

- 後援会の事務担当者として職員(アルバイト)を採用。(平成7年4月～平成8年3月)

4. 会計監査

平成8年4月20日(土)

- 今井、木下両会計監査により平成7年度の会計監査を実施。

平成8年度 後援会会員数

●工学部

平成8年4月23日現在

学科 学年	機械	電気 電子	電子 通信	建築	土木	経営	合計
1年生	199 ^(名)	175 ^(名)	116 ^(名)	100 ^(名)	95 ^(名)	110 ^(名)	795 ^(名)
2年生	229	161	144	133	102	145	914
3年生	268	182	121	143	139	168	1,021
4年生	273	213	171	138	123	164	1,082
合 計	969	731	552	514	459	587	3,816

●大学院

専攻 課程	機械	生産 機械	電気	建築	土木	経営	原子力	合計
修・博 合計	60 ^(名)	49 ^(名)	145 ^(名)	67 ^(名)	43 ^(名)	33 ^(名)	18 ^(名)	415 ^(名)

■平成7年度「後援会長賞」受賞者

氏 名	所属クラブ	進路先
家里 伸弘(機 械)	空手道部副主将	共和工業(株)
鳥居 伸彦(機 械)	水泳部主将	武蔵工業大学大学院
鈴木 洋(機 械)	国際交流友の会会長	武蔵工業大学大学院
橋山 滋(機 械)	バスケットボール部主将	国際空港事業(株)
川辺 和人(電気電子)	電気研究会	株SRA
毛利 孝平(電気電子)	アメリカンフットボール部主将	水道機工(株)
高橋 保昌(電気電子)	MIT祭実行委員会委員長	武蔵工業大学大学院
宮澤 崇(電気電子)	パチエラー7	その他
小笠原吉浩(電子通信)	ソフトボール部主将	ローツェ(株)
杉山 真也(電子通信)	文化団体連合会本部長	東京応化工業(株)
藤田 啓明(電子通信)	通工会会長	武蔵工業大学大学院

氏 名	所属クラブ	進路先
植松 宏明(建 築)	体育会副会長	戸田建設(株)
神田 直樹(建 築)	ヨット部主将	株熊谷組
森 浩通(建 築)	ラグビー部副主将	武蔵工業大学大学院
會田 八重(士 木)	洋弓部女子リーダー	武蔵工業大学大学院
小野尾貴士(士 木)	アイスホッケー部主将	日本銅管工事(株)
本井 雅文(士 木)	学団連本部・体育会本部役員	株守谷商会
井上 花江(経 営)	囲碁部部長	日揮情報システム(株)
本島 淳一(経 営)	ラグビー部主将	小倉クラッチ(株)
永山 宏之(経 営)	吹奏楽団団長	NTTデータ通信(株)
坂垣 定範(大学院機械)	機親会	株サクラダ

平成7年度 決算書

平成7年4月1日～平成8年3月31日

科 目	平成7年度予算	平成7年度決算	差 異	備 考
(収 入 の 部)	(円)	(円)	(円)	
1. 会 費	50,450,000	46,150,000	4,300,000	●新入生、在学生
2. 雑 収 入	1,670,000	1,869,942	△199,942	
3. 前 年 度 繰 越 金	32,475,257	32,475,257	0	
収入の合計	84,595,257	80,495,199	4,100,058	
(支 出 の 部)				
事業費	45,100,000	42,071,318	3,028,682	
4. 正課外教育援助費	27,700,000	27,500,729	199,271	※下表の正課外教育援助費内訳を参照
5. 父 母 連 絡 会 費	3,400,000	3,361,504	38,496	●父母との連絡会（全国26カ所）
6. 大 学 行 事 協 力 費	1,800,000	49,440	1,750,560	●ラグビー部全国大会優勝商店街横断幕寄贈
7. 学 生 厚 生 援 助 費	3,000,000	1,311,705	1,688,295	●ピアノ寄贈
8. 奨 学 資 金 費	3,000,000	3,745,000	△745,000	●第1回、第2回緊急奨学金の支給
9. 会 報 発 行 費	3,700,000	3,602,940	97,060	●Mi-Com No.12、No.13の作成
10. 新入生研修行事費	2,500,000	2,500,000	0	
運営費	7,900,000	6,503,346	1,396,654	
11. 事 務 費	2,000,000	1,262,745	737,255	●アルバイト代
12. 会 議 費	1,300,000	1,141,440	158,560	●役員会、評議員会
13. 印 刷 ・ 通 信 費	2,400,000	2,814,150	△414,150	●通知、案内の郵送
14. 旅 費 ・ 交 通 費	1,200,000	1,276,930	△76,930	●地方評議員の旅費
15. 備 品 費	500,000	0	500,000	
16. 雑 費	500,000	8,081	491,919	●振込手数料
予 備 費	500,000	519,400	△19,400	●ラグビー部優勝パーティー費用 香典代他
特別会計	4,300,000	4,300,000	0	
17. 後 援 会 基 本 積 立	2,300,000	2,300,000	0	
18. 記 念 事 業 費 積 立	2,000,000	2,000,000	0	
19. 学 生 事 故 対 策 援 助 費 積 立	0	0	0	
20. 特 別 課 外 活 動 援 助 費 積 立	0	0	0	
小 計	57,800,000	53,394,064	4,405,936	
次年度繰越金	26,795,257	27,101,135	△305,878	
支出の合計	84,595,257	80,495,199	4,100,058	

●正課外教育援助費内訳

科 目	平成7年度予算	平成7年度決算	差 異	備 考
正課外教育援助費	27,700,000 ^(甲)	27,500,729 ^(甲)	199,271 ^(甲)	●「課外活動に対する補助制度」の費用他
課外活動援助費	24,300,000	24,172,000	128,000	
(イ)学団連援助金	(12,000,000)	(12,000,000)	(0)	●学団連執行委員会、体育会・文化団体連合会各部、MIT祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(ロ)一般援助金	(10,500,000)	(10,629,000)	(△129,000)	●課外研究、対外活動、情報活動、環境向上活動、用具整備、特別企画、地域活動、学団連什器・備品購入
(ハ)学生行事援助金	(1,800,000)	(1,543,000)	(257,000)	●スプリングフェスティバル、体育祭、ミュージックフェスティバル、Mi-Techテニストーナメント等
学 生 顕 彰 費	900,000	490,099	409,901	●課外活動奨励賞、後援会長賞等
学 生 生 活 指 導 援 助 費	2,500,000	2,838,630	△338,630	●リーダー教育、学生団体の顧問・技術指導者の合宿指導、留学生の交流指導、研修・見学指導

(1) 事業

1. 正課外教育援助

学生の課外活動のより活性化をはかるため、学生団体及び学生行事等に対して援助を行う。

■課外活動援助

「課外活動に対する補助制度」による補助を行う。

●学生団体連合会への援助

(課外活動の統括組織の活動に対する補助)

●一般援助

(課外研究、対外活動、環境向上活動、情報活動、用具整備、特別企画、地域活動、活動奨励等)

●学生行事への援助(全学的行事)

スプリング・フェスティバル、ミュージック・フェスティバル、MI-Techテニストーナメント、水泳大会、ソフトボール大会、公開企画、特別行事等に対する援助。

上記の援助は、援助希望団体(個人)の申請に基づき、大学学生部の意見を受けて決定される。

●強化団体指定による援助(新設)

関東リーグ相当クラスの上位リーグで活躍する団体に対して、チーム強化のための援助を行う。

(関東リーグ3部以上相当：関東ランキング24位前後以上を目安)

■学生顕彰

●課外活動賞の内、課外活動奨励賞を与える。

●学位授与式において、課外活動に貢献のあった学生約20名に、「後援会長賞」を与える。

■学生生活指導

●学生の生活指導に対する援助を行う

(1) リーグス研修会、救命講習会の受講、外国人留学生の研修及び国際交流活動、他の費用を援助)

2. 「大学と父母との連絡会」の開催

●大学と共催し、全国各地において「大学と父母との連絡会」を開催する。今年度は、東京を含め25会場で開催する。東京会場は平成8年9月28日(土)を予定。

3. 「役員・評議員と大学教職員との懇談会」の開催

●平成8年5月25日(土)の評議員会の後、大学から学長、理事、主任教授、学生部委員、事務局管理職等が出席。

4. 大学行事への協力

●大学の主催する行事、企画への協力。

●大学で開催する学生、教職員対象の「文化講演会」等の行事への援助。

5. 学生厚生援助

●学生の厚生施設・設備充実のための援助。(9号館及び学生利用施設)

6. 緊急奨学金の貸与

●会員の家計の急変により学業の継続が困難な子弟に対して、授業料相当額(全額又は半額)を援助。

7. 会誌の発行

●後援会の会報誌「Mi-Com」を年2回発行し、学内の動きを父母に連絡すると共に、会員相互の親睦をはかる。

8. 新入生研修行事(フレッシュマン・キャンプ)への援助

●毎年4月に実施の新入生対象のフレッシュマン・キャンプへの援助。

(2) 運営

1. 会議

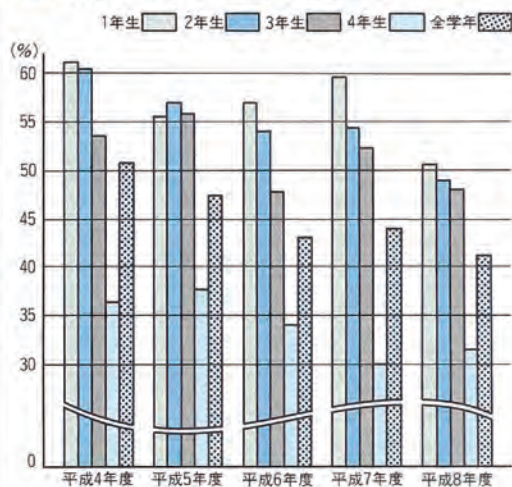
理事会 2回 平成8年5月11日(土)

平成8年11月23日(土)予定

評議員会 1回 平成8年5月25日(土)

2. 後援会の業務を担当する事務担当者(アルバイト)の採用

■過去5年間の在学生のクラブ加入率



平成8年度 予 算

平成8年5月25日

科 目	平成8年度予算	備 考
(収 入 の 部)	(円)	
1. 会 費	44,000,000	●新入生の加入者
2. 雑 収 入	1,100,000	●利息収入
3. 前 年 度 繰 越 金	27,101,135	
収 入 の 合 計	72,201,135	
(支 出 の 部)		
事 業 費	40,600,000	
4. 正 課 外 教 育 援 助 費	25,700,000	※下表の正課外教育援助費内訳を参照
5. 父 母 連 絡 会 費	3,400,000	●全国各地で年1回大学と共催
6. 大 学 行 事 協 力 費	1,000,000	●体育祭、MIT祭(学園祭)等
7. 学 生 厚 生 援 助 費	1,500,000	●厚生設備等への援助(9、18号館等)
8. 奨 学 資 金 費	3,000,000	●緊急奨学金
9. 会 報 発 行 費	3,700,000	●後援会広報誌の作成(2回)
10. 新 入 生 研 修 行 事 費	2,300,000	●全学的に行うフレッシュマンキャンプに係る援助
運 営 費	6,650,000	
11. 事 務 費	1,600,000	●アルバイト代、事務委託費、消耗品費
12. 会 議 費	1,300,000	●役員会、評議員会
13. 印 刷 ・ 通 信 費	2,300,000	●通知、案内の郵送、印刷代
14. 旅 費 ・ 交 通 費	1,200,000	●地方評議員、役員の旅費
15. 備 品 費	200,000	●後援会関係の備品、什器
16. 雑 費	50,000	●振込手数料
予 備 費	700,000	
特 別 会 計	4,300,000	
17. 後 援 会 基 本 積 立	2,300,000	●将来の事業拡大のため
18. 記 念 事 業 費 積 立	2,000,000	●大学創立記念事業協力
19. 学 生 事 故 対 策 援 助 費 積 立	0	●学生事故対策として5百万円まで積立
20. 特 別 課 外 活 動 援 助 費 積 立	0	●大規模な対外遠征援助5百万円まで積立
小 計	52,250,000	
次 年 度 繰 越 金	19,951,135	
支 出 の 合 計	72,201,135	

●正課外教育援助費内訳

科 目	平成8年度予算	援 助 対 象
正課外教育援助費	25,700,000 (円)	●(イ)(ロ)(ハ)は「課外活動に対する補助制度」
課外活動援助費	23,400,000	(ニ)は強化指定団体制度により運用
(イ)学団連援助費	(12,000,000)	●学団連執行委員会、体育会・文化団体連合会各部、MIT祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(ロ)一般援助金	(9,000,000)	●課外研究、対外活動、情報活動、環境向上活動、用具整備、特別企画、地域活動
(ハ)学生行事援助金	(1,500,000)	●スプリングフェスティバル、水泳大会、ソフトボール大会、ミュージックフェスティバル等
(ニ)団体強化援助金	(900,000)	●強化指定団体
学 生 顕 彰 費	600,000	●ボランティア表彰、課外活動奨励賞、後援会長賞等
学 生 生 活 指 導 援 助 費	1,700,000	●リーダー教育、救命講習会受講料援助、留学生の交流指導、ボランティア育成等

平成8年度 役員・評議員

役員 (敬称略)

会 長	黒 崎 浩	機 械 (新)	理 事	平 柳 健	電子通信 (新)
副 会 長	伊 藤 泰 郎	原 子 力 (再)	理 事	曾 慶 健 一	建 築 (新)
副 会 長	五 艘 章	土 木 (新)	理 事	山 本 善 彦	経 営 (新)
理 事	直 江 正 彦	電 気 (再)	理 事	潮 恵 次	電子通信 (新)
理 事	市 村 稔	機 械 (再)	会 計 監 査	木 下 健 介	経 営 (再)
理 事	三 好 陽 二	機 械 (再)	会 計 監 査	高 橋 佑 太 郎	電 気 電 子 (新)
理 事	横 山 良 一	経 営 (再)			
理 事	菱 沼 紀 昭	機 械 (再)	顧 問	古 浜 庄 一	学 長
理 事	真 壁 敏 昭	機 械 (新)	顧 問	星 野 重 夫	教 授

評 議 員 (敬称略)

穂 苅 弘 造	神奈川県	機 械 (再)	村 中 一 成	山口県	建 築 (再)	小 林 武 弘	神奈川県	機 械 (新)
大 竹 進 一	北海道	電 気 (再)	小 原 眞 吾	東京都	土 木 (再)	中 村 敏 雄	神奈川県	機 械 (新)
出 海 滋	東京都	原 子 力 (再)	工 藤 公 健	北海道	土 木 (再)	花 村 嘉 彦	東京都	機 械 (新)
紫 村 誠 一	神奈川県	電 気 (再)	伊 藤 正 樹	神奈川県	経 営 (再)	河 西 英 雄	神奈川県	電 気 電 子 (新)
秋 本 恭 伸	東京都	機 械 (再)	加 藤 友 之	東京都	経 営 (再)	落 合 悟	神奈川県	電 気 電 子 (新)
木 村 郷 美	神奈川県	機 械 (再)	梅 原 二 郎	京都府	機 械 (再)	四 方 英 雄	千葉県	電 気 電 子 (新)
伊 藤 英 雄	宮城県	機 械 (再)	国 岡 克 匡	神奈川県	機 械 (再)	中 村 平 一 郎	神奈川県	電 気 電 子 (新)
岩 元 莞 二	神奈川県	電 気 電 子 (再)	池 田 外 余 光	神奈川県	機 械 (再)	桜 井 武	神奈川県	電 子 通 信 (新)
後 藤 正 昭	兵庫県	電 気 電 子 (再)	三 木 浩	徳島県	機 械 (再)	橋 本 慶 隆	東京都	電 子 通 信 (新)
竹 内 哲 夫	高知県	電 子 通 信 (再)	鴨 川 隆 彦	福岡県	機 械 (再)	森 元	富山県	電 子 通 信 (新)
福 井 健	東京都	電 子 通 信 (再)	小 牧 明 彦	大阪府	機 械 (再)	新 居 千 秋	東京都	建 築 (新)
濱 田 恵 亮	宮城県	建 築 (再)	谷 公 士	東京都	電 気 電 子 (再)	三 高 正 明	静岡県	建 築 (新)
今 井 正 一	広島県	土 木 (再)	波 藤 雅 俊	東京都	電 気 電 子 (再)	中 本 清	沖縄県	建 築 (新)
小 林 伸 年	神奈川県	土 木 (再)	野 中 干 城	山梨県	電 子 通 信 (再)	原 田 晴 祥	東京都	建 築 (新)
奥 田 清 夫	沖縄県	経 営 (再)	小 草 伸 春	島根県	建 築 (再)	前 田 房 夫	神奈川県	建 築 (新)
須 藤 彰	山形県	経 営 (再)	佐 川 保 博	福島県	土 木 (再)	小 島 岩 男	東京都	土 木 (新)
武 野 正 幸	東京都	機 械 (再)	谷 川 豊	兵庫県	土 木 (再)	児 玉 光 東	神奈川県	土 木 (新)
大 道 裕 宣	神奈川県	機 械 (再)	林 春 子	東京都	土 木 (再)	後 藤 克 彦	東京都	土 木 (新)
山 下 浩 之	栃木県	電 気 電 子 (再)	北 川 晴 一	岐阜県	経 営 (再)	黒 須 征 男	埼玉県	経 営 (新)
安 田 善 次	愛知県	電 気 電 子 (再)	長 瀬 健	神奈川県	経 営 (再)	高 波 謙 二	長野県	経 営 (新)
伊 藤 穆	兵庫県	電 子 通 信 (再)	山 本 専 一	東京都	経 営 (再)	横 山 和 雄	東京都	経 営 (新)
島 森 義 光	茨城県	電 子 通 信 (再)	島 田 亜 雄	群馬県	経 営 (再)			
久 保 内 操	高知県	建 築 (再)	谷 口 正 克	東京都	機 械 (新)			

平成7年度「課外活動に対する補助制度」による援助

後援会の事業の一つに「課外活動に対する補助制度」があります。これは学生が自主的な財源確保の努力をしつつも補助を受けることにより、特色ある活動や、より高レベルの活動が可能となり、キャンパスライフの充実に貢献することを期待して設けられているものです。

■学生団体連合会 補助(平成7年7月4日)

平成7年度学生団体連合会への援助金として12,000,000円を補助。(学生代表者:松本一郎/顧問:中添淳)

■一般補助 第1回分(平成7年7月4日)

No.	団体名	学生代表者名	顧問名	活動の内容	補助金額(円)
1	新聞会	高野 泰志	高田 達雄	システム増設の為に機器購入	200,000
2	演劇部	太田 厚	伊藤 勝彦	春期定期公演に対し	70,000
3	写真部	塩原 文博	野崎 喜嗣	ポートレート撮影会への参加	30,000
4	グリークラブ	秋山 雅和	井出 正男	女性合唱団迦桜羅定期演奏会への賛助出演に対し	30,000
5	鉄道研究部	長根 広和	佐藤 三祿	日本油空圧学誌「油圧と空気圧」での原稿発表に対し	70,000
6	美術部	曲淵 章浩	田村 宏	実践女子大との合同展覧会に対し	30,000
7	ラジオクラブ	金網 修一	井出 正男	第25回 6m AND DOWNコンテストへの参加に対し 1995年ハムフェアへの出展参加	70,000 30,000
8	落語研究会	武田 輝章	小林 光一	新歓柏寄席及びNHK教育テレビの出演に対し	50,000
9	水素エンジン研究会	島村 和樹	山根 公高	低公害車フェアへの参加	30,000
10	体育会武道系団体	佐藤 友彦	浅野 証世	武道系団体のナイトラリー開催に対し	170,000
11	弓道部	大塚 賢一	伊藤 泰郎	東京都学生弓道連盟リーグ5部優勝4部昇格他	70,000
12	ラグビー部	本島 淳一	渡辺 一郎	地区対抗戦関東一区優勝大学選手権出場に対し	300,000
13	ハンドボール部	鈴木 誠也	浅野 証世	関東学生リーグ2部での実績に対し	200,000
14	スキー部	石野 順一	浅野 証世	「全日本学生スキー選手権大会」等の出場他、保険加入について	100,000
15	ゴルフ部	松吉 宗之	西野 忠	関東大学対抗春季リーグ戦及び入替戦出場に対し	100,000
16	アメリカンフットボール部	種崎 博寿	星野 重夫	第9回東西工業大学交流戦開催に対し	200,000
17	陸上競技部	佐々木卓也	広田 達衛	練習器具の購入に対し	60,000
18	ワンドリッグスキー同好会	直井 康真	佐藤シヅ子	関東学生競技スキー大会出場に対し	30,000
19	天文研究会	田辺 洋一	片田 敏行	学祭でのプラネタリウム展示準備に対し	100,000
20	機観会	清水 孝士	杉山 好弘	ワールドエコノムーブ出場に対し	250,000
	特別団体(カヌー)	星 栄介	浅野 証世	第18回NHK杯及び全日本選手権大会出場他、国内地方大会出場に対し	470,000
	合 計	20団体 1個人		22件	2,660,000

■一般補助 第2回分(平成7年10月19日)

No.	団体名	学生代表者名	顧問名	活動の内容	補助金額(円)
1	MIT祭実行委員会	鈴木 治	片田 敏行	MIT祭実施運用資金	980,000
2	吹奏楽団	川畑健太郎	吉田 祐夫	「M.I.T. JAZZ FESTIVAL'95」の開催	80,000
3	写真部	塩原 文博	野崎 喜嗣	学外写真展(六月場所)の開催	30,000
4	演劇部	太田 厚	伊藤 勝彦	定期公演(秋期公演)	50,000
5	マンドリンクラブ	長谷川賢二	高岡 京	第33回定期演奏会	50,000
6	鉄道研究部	長根 広和	佐藤 三祿	電車とバスの博物館における「Nゲージ大運転会」	70,000
7	モーターサイクル部	大日方太一	岩崎 征人	関東ロードレース選手権出場(決勝進出・19位)	50,000
8	準硬式野球部	後藤 修二	河村 忠治	第27回全日本大学準硬式野球大会出場(ベスト4)	500,000
9	柔道部	稲井 精彦	神山 光男	第36回全日本理工科学学生柔道優勝大会(3位)	100,000
10	弓道部	大塚 賢一	伊藤 泰郎	世田谷区体育大会弓道競技大会(準優勝・3位・5位・6位)	30,000
11	ヨット部	神田 直樹	光井 英雄	ヨットの試乗会の開催 ヨットのエンジン購入	50,000 550,000
12	スキー部	石野 順一	浅野 証世	全日本学生スキー選手権大会他出場経費に対して	50,000
13	ゴルフ部	松吉 宗之	西野 忠	関東大学対抗秋季Fブロック戦での活動に対して	20,000
14	機観会	徳永 弘毅	杉山 好弘	ワールド・ソーラーカー・ラリー・インアキタ	90,000
15	電気研究会	春田 一郎	伊藤 泰郎	MIT祭展示用のロボット等の製作	60,000
16	通工会音響研究会	赤津 直	今井 章久	MIT祭に向けてのアンプ・スピーカー製作	40,000
18	同好会(27団体)		学生部長	同好会の活動奨励費として	540,000
	合 計	43団体		18件	3,340,000



■一般補助 第3回分(平成7年12月13日)

No.	団体名	学生代表者名	顧問名	活動の内容	補助金額(円)
1	学生団体連合会	松本 一朗	中添 淳	ビデオカメラ備品・トランシーバーの購入の為	200,000
2	MIT祭実行委員会	松本 裕嗣	片田 敏行	パイプ椅子、カウンター購入の為	100,000
3	新聞会	高野 泰志	高田 達雄	パソコン及び周辺機器の購入	100,000
4	モーターサイクル部	大日方太一	岩崎 征人	'95関東ロードレース選手権大会第17戦那須大会SP125クラス参戦 他	50,000
		平岡 裕輔		関東学生自動二輪倶楽部秋のエンデューロフェスティバルの企画・運営・参加	30,000
5	マンドリンクラブ	坂巻 徳久	高岡 京	全日本学生マンドリン連盟関東支部合同演奏会	60,000
6	鉄道研究部	中川 晃一	佐藤 三祿	「スチールカー学祭号」の発行に伴う印刷代	60,000
7	準硬式野球部	大浦 俊介	河村 忠治	第2回フレンドシップ準硬式野球大会(グアム)出場に対する遠征費	40,000
8	ワンダーフォーゲル部	渡辺 浩史	安味 真正	リーダー講習会(関東学生ワンダーフォーゲル連盟)の参加費	50,000
9	バスケットボール部	城田 敏也	小玉 克巳	第37回大阪工大定期戦に伴う諸費用	200,000
10	スキー部	石野 順一	浅野 鉦世	全日本学生スキー選手権大会他に出場に伴う諸費用	50,000
11	アイスホッケー部	小野尾貴士	師岡 利政	第68回日本学生氷上競技選手権大会出場決定	1,000,000
12	弓道部	高木 宏明	伊藤 泰郎	リーグ戦、女子部リーグ戦(平成7年度)浦上同門射会出場東京都4部リーグ全勝優勝	80,000
13	ラグビー部	本島 淳一	渡辺 一郎	第46回地区対抗ラグビーフットボール大会出場	1,500,000
合 計		13団体		14件	3,520,000

■一般補助 第4回分(平成8年2月23日)

No.	団体名	学生代表者名	顧問名	活動の内容	補助金額(円)
1	学生団体連合会	内田 則夫	中添 淳	グリーンキャンパス運動に使用する物品の購入の為	50,000
2	MIT祭実行委員会	松本 裕嗣	片田 敏行	パソコンメモリーの増設及びノート型パソコンの購入の為	130,000
3	放送会	松田 武	今井 章久	フロアモニターシステム購入の為	110,000
4	写真部	花村 大志	野崎 喜嗣	他大学合同写真展に参加 MIT祭における写真展開催	20,000
5	ラジオクラブ	岡崎 譲	井出 正男	第38回ALL JA コンテストに参加	60,000
6	将棋部	関野 有	王 方一	用具購入費用(他部と共用)	20,000
7	特許アイデア研究部	澤木 俊隆	杉山 好弘	日本学生アイデア連盟展に参加	50,000
8	グリークラブ	井上 雄城	井出 正男	創部40周年記念第36回定期演奏会開催費用	100,000
9	ワンダーフォーゲル部	渡辺 浩史	安味 真正	医療講習会参加	80,000
10	スキー部	石野 順一	浅野 鉦世	全日本学生スキー選手権大会他に出場に伴う諸費用	50,000
11	山岳部	白樺 幸子	橋本 正明	テント購入費用(他部と共用)	69,000
12	武蔵工大庭球同好会連盟	新開 孝一	浅野 鉦世	オープントーナメント大会開催費用	50,000
13	電気研究会	鈴木 祐一	伊藤 泰郎	インターネット活動 リニアモーターカー設計費用	50,000
14	如学会	秋田 朋宏	鈴木 一	学生設計展示会開催費用	50,000
15	(ハンドボール部)	村上 拓真	浅野 鉦世	東日本学生選抜チームドイツ遠征の為	100,000
	特別団体(スケート)	高橋 優	浅野 鉦世	東京都スケート選手権大会、他に出場に伴う諸費用及び強化合宿への参加	100,000
合 計		15団体 1個人		16件	1,089,000

"キャンパストピックス"

横浜に新しい学問の風

「環境情報学部」の建設着工！

本学が平成9年4月に開設を予定している社会科学系新学部「環境情報学部」の設置認可申請は、一次審査を無事パスした。この結果を受けて本年4月3日に新キャンパス予定地で地鎮祭が挙行され、いよいよ本格的な建設工事が始まった。

計画では50,000㎡の敷地（工学部キャンパスとほぼ同じ広さ）に、このキャンパスのシンボルとなる「情報メディア・センター」など5棟の建物と、テニスコート、プレイコート、キャンパス広場などの外構施設などの構造物が建設される。

同学部が設置される横浜・港北ニュータウンは、首都圏で最後の大規模区画整理事業といわれ、「人と自然の共生」が開発のコンセプトとなっている。従って本学の「環境情報学部」は、この都市計画にぴったりの分野といえる。キ

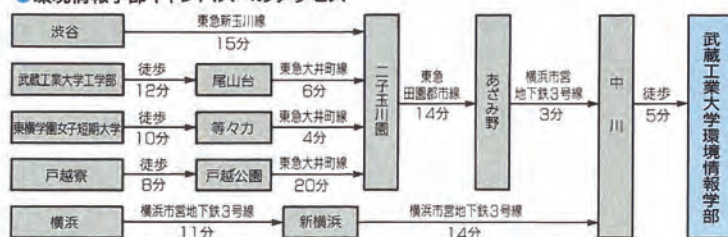
ャンパスの建設計画は自然林を大幅に保存しつつ、さまざまな自然環境に配慮しており、建設上もソーラーシステムによる温水シャワーなど様々な工夫を採り入れた“エコ・キャンパス構想”が随所に見受けられる。また、“情報メディアセンター”を核とした、学内にはりめぐらせた情報ネットワークとハitek機器の組合せは、21世紀に初の卒業生を送り出す大学として、最新の施設を完備した、未来型大学の要件を誇れるハitekキャンパスでもある。

本年4月に新設された「新学部開設準備室」では、このような恵まれた修学環境を最大限に活用し、高品質の教育をどのように行なうかといった最大のテーマに、現在精力的に取り組んでいる。

また、工学部では、既設の6学科に加えて新しく電子情報工学科、機械システム工学科、エネルギー基礎工学科を平成9年度開設に向けて設置申請を行っている。



●環境情報学部キャンパスへのアクセス



●環境情報学部の概要

設置学部・学科／環境情報学部 環境情報学科

所在地／神奈川県横浜市中区

牛久保西3丁目

開設予定年月／平成9年4月

定員／入学定員190名（うち留学生・帰国生徒30名）3年次編入学定員20名 収容定員800名

敷地面積／50,000㎡

建築物の概要／延べ面積約13,800㎡

管理棟（本館）：地上2階建 RC造

情報メディアセンター：地上2階建（地下1階）RC造

講義研究棟：地上6階建 RC/SRC造

体育館（部室）：地上2階建 RC/S造

食堂：地上2階建 RC造

ラグビー部 念願の全国大会制覇成る／

去る平成8年1月2日から6日まで、名古屋市の瑞穂ラグビー場で、第46回全国地区対抗大学ラグビー・フットボール大会が行われ、今回で6度目の挑戦となる本学ラグビー部が、ついに優勝の栄誉を手に入れました。

この大会は、日本ラグビーフットボール協会の主催する大会で、対抗戦グループやリーグ戦グループ等に属さない全ての全国の大学が対象となる大会で、昨年秋に行われた関東1区予選大会では、他をよせつけない強さで圧勝し、本学は順調に全国大会へと駒を進めました。1回戦は優勝候補の一つの大阪産業大学とあたり42-6、2回戦は地元の愛知学院大学を37-13と下し、決勝戦は中国・四国地区代表の徳山大学との対戦となりました。決勝当日は、父兄やOB、大学関係者が多数応援に駆け付け見守る中キックオフ。前半こそ徳山大自慢の重量フォワードにリードを許すものの、後半はフォワード・バックスとも相手を圧倒し、接戦の末23-13でついに悲願の初優勝を決めました。

この優勝は講義や実験等で練習に制約の多い理工系の大学としては大会初の快挙であり、文武両道のこの活躍は各方面で話題となりました。今後さらに、「連覇」という新しい目標に向かって進んでいくことでしよう。



ヨット部 新艇アランフェスV世号誕生／

この度、本学ヨット部OBより本学へヨットが寄贈され、去る5月19日(日)、諸磯港(神奈川県三浦市)にある京急マリナーにてアランフェスV世号と名付けられたヨットの進水式が執り行なわれました。

当日は天候にも恵まれ初夏を思わせる快晴の中、中添学生部長、光井ヨット部顧問を始め、大学関係者、OB会長大井氏他全国から多数のOB、ならびに現役ヨット部員を含め約100名出席のもと、航海の安全を祈願して神事が厳かに挙行されました。引き続き行われた進水式では、シャンパンを抜いた瞬間、交流校の明治学院大、慶應大などのヨットからファグフーンが鳴らされ、アランフェスV世号の進水を祝いました。試乗会では、会場の波も穏やかで絶好のコンディションの中、万国旗などでデコレーションされたアランフェスV世号を部員たちが操り、その雄姿を他のヨットに乗船した来賓・OBが観望する形で行われました。

この新艇は、前艇より一まわり大きく、ひろいキャビンは6〜7人宿泊できるとのこと、ヨット部員たちにとっては大きなプレゼントとなったようです。



アイスホッケー部 全国大会初出場、ベスト16の快挙／

今年1月6日から開催された、第68回日本学生氷上競技選手権大会(インカレ)に本学アイスホッケー部が創部以来初の出場を果たしました。

この大会は、学生アイスホッケー界では最も大きなもので、全国の各地区予選で勝ち抜いた20校をはじめ、前大会のベスト8などの計30校だけが出場できるもので、同部は中でも最大の激戦区である関東地区予選を突破しての出場です。

大会は、前日5日の開会式・同日深夜の公式練習の後、翌6日午後から初戦が開始され、本学アイスホッケー部の初戦は同日21時より中国四国地区代表の岡山大学との対戦となりました。試合は、第1ピリオド、第2ピリオド共にシュートのチャンスを生かせず、双方譲らず0-0。第3ピリオドに入り試合の流れが急変し、開始5分に経営1年(現2年)の丸山君が先制点を決めると試合はにわかに活気づき、8分に岡山大学に同点にされるも、その直後には逆転のシュートを決めるなど、結果として3-1で初戦勝利を決めました。翌日の2回戦では強豪日本大学と対戦し、残念ながら0-19という結果に終わりましたが、それでも新横浜プリンスホテルスケートセンターをホームリンクに毎回深夜の練習という悪条件のなか、学業との両立をうまく果たしながらの好結果といえるでしょう。



●緊急奨学金⇒平成8年度奨学生として、中村幸紘君(建築1年)が採用され、授業料の半額が貸与されました。

事務局だより

～新規後援会員募集のお知らせ～



▲左より「マイコム」の編集を担当している室川さん、後援会の事務を担当している鈴木学生課長と小島さん。

Mi-comを作るにあたって、いろいろな失敗や苦勞もありますが、出来上がった時の感激はひとしお。特に表紙の学生の表情にご注目。そのイキイキとした表情は、こちらまで元気になりそうです。

後援会では、より豊かな学生生活を応援するため新規会員を募集しています。まだ、未入会のご父母の方がいらっしゃいましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

⇒問い合わせ先03-3703-3111 内線2180

今回は「美術部」と「スキー部」におじゃましました。芸術分野とスポーツ分野、とジャンルの違いはありますが、好きなことに青春を賭けた両部の部員たちの表情は、ともに生き生きと輝いて見えました。

明るい雰囲気の部室が質の高い作品を生み出す

【美術部】

▲部室で制作にはげむ新入部員

●新入部員のやる気に刺激され

部室内での創作活動が活発に

自分で課題を見つけ、自分で表現手段を選び、そして自分で創作する……。ひとつの作品を完成させるまで、ほとんど他人の力を借りることがないためか、美術部では、何よりもまず“個”が尊重されています。他の部のように頻繁に練習やミーティングを行ったりせず、普段の活動としては水曜日の午後の定例会だけ。この定例会も会議のような堅苦しさはなく、ほとんど連絡事項の伝達だけで終わってしまうとか。

「それでも、部室には毎日多くの部員たちがやってくるんです。授業が終わったあと、暇つぶしにぶらりとやってくるというパターンもありますが（笑）、最近では部室で創作活動をする人もけっこういまして……」と言うのは部長の飯田和也君（建築3年）。その言葉とおり、取材に訪れた日には、部室内に製作途中のキャンバスがいくつも置かれていました。

「今までは自宅で創作活動をするというパターンが多かったんです。でも今年は例年になくたくさんの1年生が入部したので、ちょっと雰囲気が変わってきました。というのも、積極的に部にとけこもうと



▲温和で頼りになる、飯田君



▲孤独な青春が好きな石塚君



▲見えない所で頑張る実力派の鈴木君

ではないでしょうか」と語るのは石塚良介君（土木3年）。鈴木圭君（建築3年）も次のように言います。「昔からそうなのですが、うちの部に入ってくる新入生は、高校時代から本格的に美術をやってきたものが少ないんですよ。今の1年生を例にとっても、高校の美術部に所属していた人はほとんど1割に満たないんじゃないですか。だから慣れていない人たちに筆やキャンバスの使い方をアドバイスするためにも、多くの人が部室で創作活動をするのはいいことだと思います」

現役を引退した4年生や院生もしばしば部室を訪れ、後輩たちの作品について批評を加えてくれるそうです。

部としては決して拘束せず、自分の好きなときに部室にやってきて、他人からのアドバイスが欲しければそこで作業をす



▲フラッと部室に遊びに来たOB(院生)の星野剛さん

る……。美術部のいまの活動スタイルは、芸術系の部活動として理想的と言えるかもしれません。

●アットホームな関係だから

しっかりした作品批評ができる

取材に訪れたとき、美術部は7月に行われる実践女子大学との合同展覧会を1カ月後に控えていました。武蔵工大美術部は昔から実践女子大学と交流があり、この合同展も毎年恒例のように行っているそうです。今年の会場は新宿文化センターの地下一階。この展覧会には入部したばかりの1年生の作品も展示されます。

「出品作品のジャンルや大きさは自由。ただ、会場のスペースにかぎりがあるので、一人一作品に限っています。あと1ヵ月しかないのに、みんな作品にとりかかっているとは思いますが、まだ“完成した”という声は誰からもあがってません（笑）。僕自身、まだ半分もできていないので大きなことは言えないんですけど」（飯田君）

「1年生がどんな作品をあげてくるのか、とても興味がありますね。“こいつはスゴイ奴が入ってきた”なんてショックを受けたりして」（遠藤卓哉君・建築3年）。

1年生は、初めての展覧会に対してどのような意気込みでいるのでしょうか？

高久通君（電気1年）に聞いてみました。

「緊張しています。高校の授業で油絵をやったことはあるんですが、本格的に描くのはこれが初めてですから。ただ、そのことをプレッシャーに感じる反面、自分の描いた絵を先輩や展覧会を見にこられた人がどのように評価してくれるか、早く知りたいという気持ちもあるんです」

美術部は、展覧会にはそれぞれの作品に対する感想を書いてもらう用紙を必ず用意するそうです。この用紙は展覧会に訪れた人はもちろん、部員にも手渡されます。美術のような創作活動はとかく



▲一見シッカリ者の遠藤君



▲バワ〜と実直さが身上的高久君

自己満足に陥りやすいだけに、互いが互いの作品を評することのできる展覧会は、部員たちにとってまたとない機会となっているようです。

「うちの部は部員同士の仲が非常にいいんです。だからたとえ後輩でも、先輩の作品を自由に評価できる雰囲気があるんです。これは芸術系の部活動として大きなメリットだと思っています」（日置友純君・建築2年）



▲挙動不審さ部内No.1の日置君

また展覧会が近くなるとシルクスクリーンでポスターを作り、他大学の美術部にあてて送ります。

「作品を観に来ていただいた他大学のひと仲良くなり、また違う機会に合同展を行うというケースも多いんです。だからポスター作りは展覧会の前の重要な作業。このときばかりは部員一丸になって作業します」（飯田君）

ちなみに部員たちが取り組んでいる作品は、油彩、水彩、エンピツ画、アクリル画、といった絵画系だけでなく、シルクスクリーン、彫刻、オブジェ……と多岐に及びます。今回の合同展でも、さまざまなジャンルの力作が発表されることでしょう。

●美術部創立以来の快挙／

M.I.T.祭で学長賞を受賞

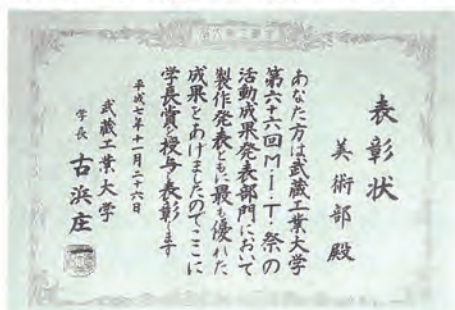
武蔵工大美術部の年間活動の中では、M.I.T.祭で行う学内展示も、大きな比重を占めています。ここでも部員たち全員の作品を展示し、またその会場となる教室前には部員の共同製作による大看板を設置します。昨年の大看板は、ゴッダンの絵を畳八畳分くらいの板に模写した壮大なスケールのものでした。“個”を大事にする武蔵工大美術部ですが、展覧会のポスター作りと、この大看板の製作のときには、部員同士のピタリと息のあったところを見せるわけです。

ちなみに昨年のM.I.T.祭では創部以来初めての快挙（？）と言われるほどの出来事がありました。

なんと展示部門で最高の荣誉である学長賞を受賞し、賞金10万円を獲得することができたのです。美術部内ではもっぱら“遠藤君の描いた油絵が学長先生に気に入られたのが勝因”とのウワサでしたが、きっと全員で作り上げた大看板の効果も高かったことでしょう。賞金はシルクスクリーン用の感光灯などの購入に使ったそうです。

例年になく1年生が多く入部したことで、学長賞受賞で、大いに気をよくしている武蔵工大美術部ですが、今後の活動について、部員の皆さんはどんな抱負を持っているのでしょうか？

「年間活動の中に、もう少し企画を増やしてもいいんじゃないかと思っています。せっかくこれだけ



け部員数が増えたんですから、大人数のメリットを生かしたイベントを積極的に行っていきたいですね」(飯田君)

「創作にはけっこう材料費がかかるんです。たとえば油彩の絵筆は1本1000円くらいするものなんです。すぐダメになっちゃうから、けっこうツライんです。キャンバスや絵の具も高いですし、締め切りが迫っているのに金銭的に余裕がないなんてときには、ホントに泣きたくります(笑)。だから道具や材料を部員同士でまとめて画材屋さんへ注文したらどうかと思うんです。大量に注文すれば、かなり割り引きしてくれるって聞きましたから」(鈴木君)

「他大学との交流がもっと活発になればいいですね。うちは理工系なので、文科系大学の美術部の人たちが、どんな姿勢で美術に取り組んでいるのかを知るの、とても有意義なことだと思うんです」(石塚君)



▲こよなくゲームを愛する亀山君



▲楽しく描くがモットーの西山さん

「過去の写真を見ると、部室の真ん中に石膏像を置き、それを囲んでみんなでデッサンしている風景があったんです。ああいうデッサン会みたいなものを復活させてもいいんじゃないでしょうか」(亀山寛君・建築2年)

「課外活動のメリットは、学科や学年を越えて、多くの人と知合えるってところにもあると思うんです。ちょっと気が早いかもしれませんが、来年の新入部員の勧誘

では、いろんな学科からバランスよく勧誘したいですね。うちの部にはなぜか建築学科の人が多から」(西山瞳美さん・土木1年)

この頃では部室を訪れるOBの方から、“活発になった”“雰囲気明るくなった”などと誉められることも多いという美術部。このアットホームな雰囲気に満ちた部室から、今後もますます質の高い作品が生み出されることでしょう。



▲部室にあった作品

【スキー部】

学生たちと熱血監督の二人三脚

長野県代表として、2年連続で全日本スキー技術選手権大会に出場という華々しい経歴の持ち主です。現在は、白馬乗鞍高原で『ファンタジー』というペンションを経営されています。この羽毛田監督の話はまたあととすることにしましょう。

武蔵工大スキー部は、冬期だけでなく、春や夏にも合宿練習を行っている点も大きな特長です。今年の5月のゴールデンウィークには、新入生歓迎を兼ねた合宿を羽毛田監督のペンションで行っています。毎年部員たちが企画しているOBと現役との交流イベントでは、今回は近くの桐池高原スキー場の頂上までヘリコプターで上がって雪上練

▲第23回全国学生岩岳スキー選手権大会（平成8年3月）
大回戦に出場の石野康一君（機3）
彼は昨年度インカレ大回戦4部10位

●シーズンまでをいかに過ごすか、

ここが何よりも重要なところ

冬のスポーツといえば、真っ先にスキーを挙げる人も多いのではないのでしょうか。このスキー、単なる「趣味」とするぶんにはとても楽しいものなのですが、「競技」として真剣に取り組むとなると、実はかなりハードな側面を持っているのです。

武蔵工大スキー部には、ウィンターシーズンだけでなく、年間を通してみっちり活動スケジュールが組み立てられています。取材に訪れたときもキャンパス近くの多摩川べりで、部員たちは陸上トレーニングに汗を流していました。初夏の日差しの中、筋力トレーニングやダッシュを繰り返す部員たちの表情は真剣そのもの。

「スキー場に雪のないシーズンをどう過ごすかは、競技としてスキーを行う者たちにとって非常に重要なポイント。ここをおざなりにしていたら、記録は絶対に向上しません。その点僕らには羽毛田美鶴監督が組んでくれたトレーニングメニューや健康管理スケジュールがありますので、他大学に比べて充実した練習が行えているのではないのでしょうか」

と語るのはトレーニングチーフの松島良友君（電気3年）。彼の話の中に出てきた羽毛田監督は、武蔵工大の教員でもOBでもありません。国土館大学を卒業され、



▲今、夏、陸トレリーダーの天下、松島君

学生時代にはインターカレッジや全日本選手権などの大会に数多く出場、卒業後の89年と90年には、



▲笑顔が絶えない主将の鈴木君



▲髪形がいつもバッチリ決まっている中川君

習をするという、特別メニューが実施されたそうです。

「新入部員が雪の上でトレーニングをするのは、12月の授業が終わってから、というところが普通なんです。つまり、実際にゲレンデに立ち、「スキー部に入部したんだ」と実感できるのが、大学に入ってから半年も経った後になるわけです。だから、新入生たちが陸上トレーニングばかりの練習に嫌気が差し、ついには退部してしまう、なんてケースもよく聞きます。その点うちは大丈夫。新入生に早くスキーの醍醐味を知ってもらいたい、という監督の考えで、最初にオイシイところを経験しますから（笑）」と語るのは、主将を務める鈴木英二君（建築3年）。副将の中川一郎君（機械3年）も次のように言います。

「頂上のほうは、木の上まですっぽりと雪に埋まっていて、自分たちの他には何も見えない一面の銀世界。まるでヨーロッパのゲレンデみたいでした。1年生の中にはまったくスキー経験のない者もいるのに、いきなりそんなところへ連れていくんで

すよ。でも、確かにこの素晴らしい環境の中でスキーをすれば、スキーというスポーツの虜になることは間違いないと思います」

9月中旬に行われる夏合宿にも監督のペンションが提供されます。夏場の榎池高原スキー場は、人工芝の上に水を散布して作られた人工ゲレンデがあるので、部員たちはここで陸上トレーニング＋サマースキーを行うのです。サマースキーは、冬場とまったく同じ装備で行うため、実践的なテクニックが養えるそうです。ここで羽毛田監督は部員たちそれぞれの体力や技術をしっかりと観察し、シーズン本番までどんなトレーニングや健康管理を行えばいいのか、部員一人ひとりに適したアドバイスをします。

●熱血・羽毛田美鶴監督と部員たちとの 強固な信頼関係

今や武蔵工大スキー部にはなくてはならない存在である羽毛田監督ですが、なぜスキー部の監督を引き受けてくださることになったのでしょうか？「私の友人に渡辺という者がいるんです。私と彼とは学生の頃から、さまざまなスキー大会で戦った仲。その彼がもともと武蔵工大スキー部のコーチをしていたんですよ。で、うちのペンションに学生たちをトレーニングによく連れてきていたんですね。しかし彼は青森の実家へ急に帰ることになってしまいまして、それで後任を頼まれたんです。その頃の私は、すでに現役を引退して、指導員として地元でスキーの指導をしていたこともありましたが。もっとも、最初は冬のシーズンだけの指導だったんですよ。ところが3～4年経てくると、そうした指導に疑問を持つようになって……。もっと部員たちとガブリ四つに組んでみたくなったんです。彼らのやる気やひたむきさに触発されたんでしょうね。今では一年中、暇を見つけては東京に出てきて彼らと一緒に汗を流しています」(羽毛田監督)

自分のプライベートを犠牲にしながらも、陰になり日向になり、部員たちを暖かく見守っている羽毛田監督。その厚意に対して、武蔵工大部員たちは次のよう



▲時には朝まで、学生と語り明かすという羽毛田監督

に語っています。

「めっちゃめっちゃありがたいです。インターカレッジやチャンピオン大会で他大学の1年生と一緒にになったんですが、ここまでしっかり見てくれるコーチがいるのは、武蔵工大だけだって言われました。それに監督が教えてくれるのは技術的なことだけじゃないんですね。生活面のことなどいろいろと教えてくれますし」

(野崎智弘君・経営2年)

「大事な時は、しっかりと叱ってくれます。でもハズす時は思い切りハズしてくれます(笑)。その辺がとても好きです」(鈴木君)



▲「最近すごく幸せ」と野崎君

武蔵工大スキー部員たちがそっと教えてくれた情報によると、実は羽毛田監督は間近に結婚を控えているとか。そのことについて監督にお祝いの言葉を言うと、笑いながらこう語ってくれました。「家庭をもったからといって、武蔵工大スキー部のつきあいはあまり変わらないでしょうね。彼らに指導する時間は、私自身にとってもかけがえない時間なんです。部員たちの最初のレベルははっきり言って低いです。でも、みんな素直だし、うまくなりたいという気持ちがあるのがすごく強い。その気持ちが技術不足をカバーするし、またこちらから、どうすれば彼らの記録が伸びるのか工夫してみる。そして、少しずつでもその成長ぶりを見ているのが好きなんです。ありがたいことに僕の彼女も、こんな自分の気持ちを十分理解してくれています」

これからもこのままずっと監督を続けていきます、と語ってくれた羽毛田監督。武蔵工大スキー部員たちにとって、これ以上心強い言葉はないでしょう。

●スキーを愛してるから学業と絶対両立させる

どのクラブでも大変なのが、学業との両立です。特にスキー部の場合は、競技大会が学年末試験のある冬に集中していることもあり、部員一同並々ならぬ努力をしているようです。

「後期は、インターカレッジやチャンピオン大会などがあるので、どうしても授業に出席できないことが多くなる。だから、受けられる時の授業は



絶対に休むな、前期のうちにできるだけたくさん単位をとっておけ、と先輩や監督から口が酸っぱくなるほど言われてます。練習がハードなので何かとたいへんですが、好きなスキーのためですから、みんなかなり頑張ってます」(関伸泰君・機械2年)。



▲「文武両道ガンバルぞ!」関君



▲「スキーで単位が取れるといいなあ」久野君

「合宿や大会のスケジュールが試験に引っ掛かるようなときは、それぞれの教授に合宿や大会の前後に試験を受けさせてもらえるようお願いしています。ただお願いするにしても、普段から真面目に授業に出ていないと、誰もそんな融通は効かせてくれません。ですから、熱があっても少々具合が悪くても、できるかぎり出席するようにしています」(久野一繁君・経営3年)

こうした部員たちの努力のかいがあって、去年はインターカレッジの4部で24位という成績をはじめ、数々の大会で好成績を残すことができました。ちなみにインカレの4部は100校以上がひしめき合う激戦区。この大会は、アルペン、ジャンプ、距離など各部門の総合計で競われるのですが、武蔵工大スキー部は、アルペン競技でしか参加していません。このことを考えれば、武蔵工大スキー部が他大学を相手にいかに奮闘しているかがえるでしょう。

「アルペン競技で1~3位を独占しても優勝は難しいんです。でも、アルペン競技でなら、他のどの大学にも負けないようにしたいですね」(鈴木君)

羽毛田監督は「うちの部員たちは、誰一人として妥協をしない。スゴイヤツらだと思います」と



5月、梅池高原頂上までヘリコプターで



▲梅池高原へ全員集合!

言います。

「理工系の大学だから授業も忙しいはずなのに、スキーにめいっぱい情熱を傾けている。一流と呼ばれる選手たちをいろいろと見てきましたが、彼らに少しも負けないくらいスキーというスポーツに真摯に取り組んでいると思います。だから僕としてもそのガッツに応えようと、フォームをビデオで撮影して見せてあげたり、電光掲示板を使ってタイムを常に意識させたり、とできるかぎり最高の練習環境を整えるようにしてるんです。なんだかどっぷり武蔵工大スキー部にハマっちゃってますね。情熱を武器に、うまくヤツラに寄せられるという気がしないでもないですが(笑)。まあとにかく、頑張り屋ばかり揃った部ですよ」

ちなみにスキー部は年に1回、武蔵工大の全クラブ中、完成度はピカイチとの定評がある部誌『エーデルワイス』を発行しています。印刷と製本はOBに頼っていますが、企画、構成、編集、レイアウト……と、作業のほとんどを部員たちが担当しています。マネージャーを置かず、部のことはすべて分担して行うという監督の方針のもと、練習も雑務も懸命にこなす部員たちが作っているからこそ、ストレートに情熱が伝わる充実した内容で、こんなところからも部員たちの頑張りのほどがうかがえます。

熱血監督と二人三脚で活動が続けるスキー部。この部員たちの頑張りがあれば、これからますますの好成績が期待できそうです。



▲部誌「エーデルワイス」

平成8年度「大学と父母との連絡会」のお知らせ

全国25ヶ所で開催

後援会と大学の共催により平成8年度「大学と父母との連絡会」を下記の25会場で開催します。大学側から教職員の方が出席され、教育方針や現況等について説明していただくと共に、在学する子弟の修学および学生生活上の諸問題について懇談することを目的としております。奮ってご出席ください。

●平成8年度「大学と父母との連絡会日程および会場」

開催地	開催日	開催時間	会場と所在地（電話番号）	備考
函館市	9月14日(出)	10:30～13:00	ホテルJALシティ函館 函館市宝来町22-15 (0138-24-2580)	食事会方式となりますので当日、食事代として1000円を徴収させていただきます
札幌市	9月15日(日)	10:30～13:00	札幌ステーションホテル 札幌市北区北七条西4-2-2 (011-727-2111)	食事会方式となりますので当日、食事代として1000円を徴収させていただきます
秋田市	9月14日(出)	10:00～13:00	ホテルパールシティ秋田 秋田市大町3-4-18 (0188-65-2111)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
仙台市	9月15日(日)	10:30～13:30	ホテルサンルート仙台 仙台市青葉区中央4-10-8 (022-262-2323)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
郡山市	9月15日(日)	9:30～12:00	郡山ビューホテルアネックス 郡山市中町10-10 (0249-39-1111)	
宇都宮市	9月14日(出)	9:30～12:00	ホテルフェアシティ（9階 弥生の間） 宇都宮市東宿郷2-4-1 (028-632-7777)	
水戸市	9月13日(金)	9:30～12:00	三の丸ホテル（2階 若樹の間） 水戸市三ノ丸2-1-1 (029-221-3011)	
東京	9月28日(出)	11:00～15:30	武蔵工業大学 東京都世田谷区玉堤1-28-1	
高崎市	9月8日(日)	10:00～12:00	ホテルメトロポリタン高崎（7階 パール） 高崎市八島町222 (0273-25-3311)	
新潟市	9月7日(出)	10:00～12:30	ホテルイタリア軒（5階 弥彦の間） 新潟市西堀通7番町1574 (025-224-5111)	
松本市	9月7日(出)	10:00～12:00	ホテル新井 松本市深志2-2-1 (0263-34-5000)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
甲府市	9月8日(日)	10:00～12:00	古名屋ホテル 甲府市中央1-7-15 (0552-35-1122)	
富山市	9月7日(出)	10:00～12:30	第一イン富山（11階 立山剣の間） 富山市桜町1-1-1 (0764-42-6611)	
金沢市	9月8日(日)	10:00～12:30	金沢都ホテル 金沢市此花町6-10 (0762-61-2111)	
静岡市	9月7日(出)	(午前の部) 9:30～12:00 (午後の部) 13:30～16:00	静岡商工会議所（403号室） 静岡市黒金町20-8 (054-253-5111)	
名古屋市	9月8日(日)	10:00～12:30	丸栄カーネーションセンター（第2集会室） 名古屋市中区錦3-23-31 (052-264-5441)	
大阪市	9月9日(月)	10:00～12:00	大阪第一ホテル（6階 若草） 大阪市北区梅田1-9-20 (06-341-4411)	
岡山市	8月30日(金)	10:30～13:30	岡山東急ホテル（3階 青松の間） 岡山市大供3-2-18 (086-233-2411)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
広島市	8月31日(出)	10:30～13:30	三井ガーデンホテル（3階 白鷗西の間） 広島市中区中町9-12 (082-240-1131)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
小郡町	9月1日(日)	10:30～13:00	ホテルみやげ 吉敷郡小郡町黄金町2-24 (08397-3-1111)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
高松市	9月1日(日)	11:00～13:30	高松東急イン（さぬきの間） 高松市兵庫町9-9 (0878-21-0109)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
高知市	8月31日(出)	11:00～13:30	高知フシントンホテル（ガスライト） 高知市追手筋1-8-25 (0888-23-6111)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
福岡市	9月1日(月)	10:00～12:00	ホテルステーションプラザ 福岡市博多区博多駅前2-1 (092-431-1211)	
鹿児島市	8月31日(出)	10:00～12:00	チサンホテル鹿児島 鹿児島市山之口町2-7 (0992-24-3211)	
那覇市	7月14日(日)	10:00～12:00	かりゆしアーバンリゾート那覇（6階 久慶の間） 那覇市前島3-25-1 (098-860-2111)	